

コロナ禍へも果敢に総合適応力発揮

ワタナベグループ

渡辺食品機械を軸としてワタナベ冷機、ワタシヨウ、ワタシヨウフーズ、マルシヨウ、ナベビルとグループ6社で構成される空調冷熱ならびに食品流通総合事業を展開する通称、ワタナベグループは昨年5月1日、『令和』への改元同日に大きな変革の時を迎えた。創業から78年を経て、さらなる成長を期して第3世代へタクトを託すという組織改革を遂行した。同グループを2代目社長として牽引してきた渡邊正一氏はナベビル代表取締役社長のみを残し、他の全5社においては全て代表権を持たない取締役会長となった。同グループの両雄となる渡辺食品機械へは長男、渡邊伸一郎社長、ワタシヨウには次男、渡邊伸隆社長が就任。さらに伸一郎社長、伸隆社長の下には渡邊家親族(正一氏の甥)となる西田壮一氏ならびに西田潤氏をそれぞれ要職へ付け、次世代の布陣として盤石な体制を整えた。一転、毎年国内外より200万人が訪れるとされる「さっぽろ雪まつり」を契機に浮上した道内の新型コロナウイルスの感染拡大は、2月末のこと。すぐさま国内では初となる緊急事態宣言を鈴木直道知事が道内全域へ発出した。以降、約4ヶ月に渡る行動制限に伴う経済的自粛の中でワタナベグループは果敢に事業継続を総合適応力で乗り切り、再び浮上を始めている。



渡邊 正一 会長



渡邊 伸一郎 社長

各部門にエキスパートが集結の強み

横断的に事業要素を拡充

ワタナベグループの原点である渡辺食品機械(社長=渡邊伸一郎氏、本社=札幌市中央区南一条東4丁目7番地)は「飲食のトータルプランナー」をテーマに空調冷熱機器、補機、資材、機械といった周辺領域全般を取り扱う冷機・空調機器・資材総合商社として看板を掲げているが、実態としては横断的に事業の要素を拡充してきた。全道の冷凍設備工事店・空調設備工事店との強力な連携によるルート販売を担う「機器営業」

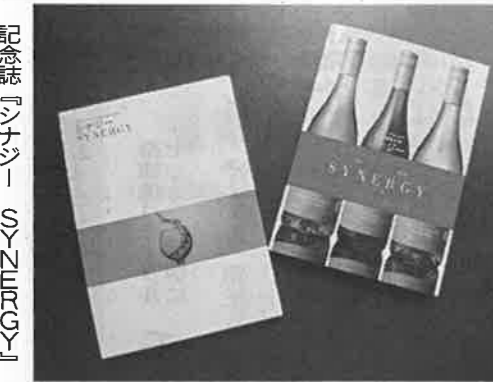
「2×6=12」(12は無限大)の文字が添えられている。この意味するものは、新たな2人の社長を迎えたワタナベグループ6社が相乗効果(すなわちシナジー)を發揮して、さらなる無限大の発展を遂げたいと願いが込められた。

再び、積み上げていく強い決意

「フード&エン지니어リングの総合企業」としてホールディングス化されたワタナベグループはグループ全6社が共にシナジーを生み出すことをテーマとしてきた。とりわけ、こうした強い意識が芽生えたのは、やはり昨年の第3世代への承継だ。この事業承継を機に「語の継ぐもの」として記念誌となる『シナジー SYNERGY』が編纂された。

現在、6社の主要事業は「渡辺食品機械」が冷凍機・空調機器、資材を販売する総合冷熱商社。「ワタナベ冷機」は低温を主体とする冷凍・冷蔵・店舗設備設計・施工業者。「ワタシヨウ」は業務用酒類食品卸販売。「ワタシヨウフーズ」は業務用酒類、食品・水販売と食肉加工製造業。但し、近年は焼き鳥や焼肉を提供する食肉専門飲食店や居酒屋向けに原材料

渡邊正一会長は「杜史は元来、会社の過去を振り返るものだが、この記念誌は未来の指標となるべく編纂した」とし、



「コロナ禍がもたらしたものは決してネガティブなものではないだろう。渡辺食品機械の渡邊伸一郎社長は「これまで積み上げてきたものが一時的に消滅したとしても、再びグループの総力を結集して積み上げていく」と強い決意を改めて示す。



場などベンダー(中食)系も同様の流れにある。また空調工事については依然として好調で材料の調達を含めて繁忙を極めていっている。こうした案件については既に来年3月までの計画に入っている状況と渡邊伸一郎社長は話し、新型コロナウイルスの影響については大きなダメージにはならず、現状も事業継続が行われているものとした。

「冷媒については安定供給、低GWPの実績も顕著に」という。グループ連携でスーパードリンクなどの冷設工事を担うこともあり、低GWP冷媒であるR448Aの供給ならびに設備工事などにも携わる機会が増えている。

記念誌『シナジー SYNERGY』

ワタシヨウ物流センター

ホームページで事業領域を示すイラスト